

活躍する南丹市の人びと

市民の皆さんが活躍する南丹市に――。

このコーナーでは、まちづくりにおけるさまざまな分野で活躍される市民の皆さんを紹介します。

地域福祉に貢献 厚生労働大臣表彰を受賞

ふなこし
船越

あきら
昭さん

(日吉町)

12月5日「第67回障害者自立更生等厚生労働大臣表彰」の表彰式が



▲表彰を受けられた船越さん(左)と佐々木市長

厚生労働省(東京都霞が関)で開催され、船越昭さんが受賞されました。

船越さんは、現在、南丹市身体障害者福祉会の副会長を務められており、身体障害者スポーツの振興や障害者福祉の啓発、地域住民との交流活動など、身体に障がいのある方が楽しく、参加しやすい環境の整備に取り組んでこられました。また、京都府身体障害者相談員も長年務められ、日頃の悩みや生活の相談、指導や助言を行い、身近で頼れる相談員として地域福祉の向上に尽力されてきました。

そうした長年にわたる活動が評価され、今回の受賞となりました。受賞に際し、船越さんは「長年活動できたのは、お支えいただいた皆さんのおかげです」と感謝をされるとともに、「私たちの活動が周知され、もっと多くの方と交流を深めていきたい」と抱負を語られました。

地域振興に尽力 内閣官房長官表彰を受賞

中世木区

11月3日、「平成29年度あしたのまち・くらしづくり活動賞」の表彰式が北とびあ(東京都北区)で開催され、日吉町中世木区が内閣官房長官表彰を受賞されました。

中世木区は、当時65歳以上が49%を占める限界集落の一步手前となっていました。現状を打破しようと、平成24年に就任した区長が「子どもの声が聞こえる村づくり」を呼び掛け、未耕作地の棚田を雑壇に見立てた「棚田ひな祭り」と同時に婚活イベントを実施され、多くの都市



▲佐々木市長に受賞報告する中世木区の皆さん

住民や集落外の人々が訪れるなど、盛況を収めました。また、平成25年には、集落の山野草愛好家が絶滅危惧種に指定されている「セツブンソウ」の群生地を発見し、集落活性化に役立てようと「せつぶん草まつり」を催され、集落人口の3倍となる600人を集客しました。

これらの成功体験は、集落の自信につながり、団結が生まれ、丹波黒大豆をはじめとした地元特産品などの生産・販売にも取り組まれています。



▲群生するセツブンソウ

婚活イベントを契機に入籍し、居住された方や、集落に興味を持った家族が移住されるなど地域の人口も増加。「子どもの声が聞こえる村」を実現された取り組みが評価され、今回の受賞となりました。受賞に際し、現区長を務める梶本泰広さんは「受賞を契機に、今後も区民一人一人が無理のない範囲で地域づくりに参画でき、楽しい村にしたい」と話されました。